

平成27年度 広島大学附属三原学校園 第18回幼小中一貫教育研究会

本学校園は、本年度より新たに文部科学省研究開発学校として3年間の延長指定を受けることとなりました。平成24年度から3年間、新領域「希望（のぞみ）」で育もうとした資質・能力を今年度からは「**通教科的能力**」ととらえ、新領域「希望（のぞみ）」のみならず、「通教科的能力」に関連した保育・教科の本質に根ざした資質・能力の育成を図ります。また幼小及び小中のそれぞれの接続期を重視した**新たな学年区分**により、12年間一貫の全教育課程を通しての取り組みへと発展させていきます。これらの研究の成果を12月4日（金）・5日（土）に次の内容で公開します。ご案内いたします。

文部科学省研究開発学校指定校（延長指定 H27～29） 研究課題

社会的自立の基礎となる**資質・能力**及び**態度・価値観**の体系的な育成のための、幼小中一貫の新領域を核とした自己開発型教育の研究開発<第4年次（延長1年次）>



第1日目

平成27年12月4日（金）

新領域「希望（のぞみ）」の公開保育・授業及び研究協議会

☆12年間一貫の発達と接続を意識した**新たな学年区分**による保育及び授業の提案

「入門期（年少・年中）」
「幼小接続期（年長・1年・2年）」
「中間期（3年・4年）」
「小中接続期（5年・6年・7年）」
「最終期（8年・9年）」の5つの学年区分による保育・授業を提案します。
※赤字は授業公開学年

第2日目

12月5日（土）

公開保育・授業及び研究協議会

☆「**通教科的能力**」を育む保育及び授業の提案

本年度は上記の「通教科的能力」と関連的に育成する保育・教科の本質に根ざした資質・能力を明確にし、その資質・能力を育成するための指導方法・評価方法を提案します。